



アジサイの花（大阪市内）

トピックス：国有林における収支のプラス転換の実現に向けた「施業の効率化」の取組について（森林整備課）

ニュース：治山課、鳥取森林管理署

花草木：シモツケ

我が署のスタッフ：広島北部森林管理署

森林事務所等紹介：金沢森林事務所（石川森林管理署）

国有林最前線：奈良森林管理事務所

国有林における収支のプラス転換の実現に向けた「施業の効率化」の取組について

【森林整備課】

令和3年6月に閣議決定された「森林・林業基本計画」において、新技術を取り入れ、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の展開および「長期にわたる持続的な経営」を実現できる林業経営体の育成に力を入れていることとしています。

このことを踏まえ、当局では、造林作業のコスト削減に向け様々な取組を行い、検証してきました。特に下刈り及び獣害対策に関するコスト削減に積極的に取り組んできましたので、これまでの実証成果についてご紹介します。

1 下刈り回数の削減

(1) 取組の概要

下刈りは、植栽木の生育を阻害する雑草木を刈り払う作業であり、雑草木が植栽木と競合する場合にのみ刈り払いを行うことで、下刈り全体の削減を図ることが可能です。

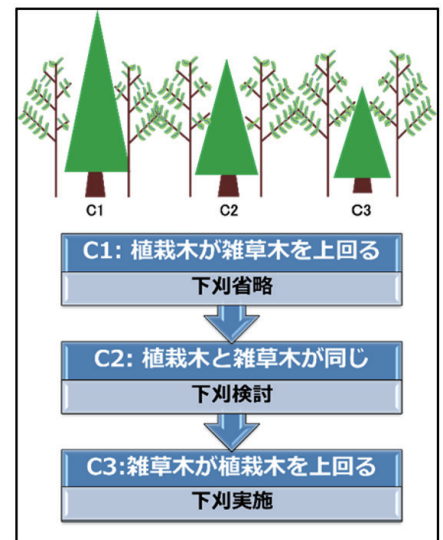
当局においては、下刈り要否の判断を植栽木と雑草木の競合状態を両者の相対的な樹高関係を指標化したC区分判定により行い、競合状態をC1～C3の三段階に分け、下刈りの要否を判断しています。

また、一部では、無下刈りで生育している事例もあり、現地の実態に応じ、真に実施しなければならないところはどこなのかを見極め、下刈りに取り組んでいます。

(2) 取組の成果・効果

これまで下刈りは、植栽木の樹高が雑草木より抜き出て生育に支障がなくなる時期まで毎年、画一的に実施しトータルで5～6回程度実行してきました。

現在、当局では、C区分判定の取組により、平均下刈り回数を2回程度まで削減するとともに、その年度に下刈り対象となる全面積のうち、70%程度を省略対象としています。



C区分判定



無下刈りによる植栽6年後の事例
(滋賀森林管理署)

2 下刈り時期の弾力化

(1) 取組の概要

下刈りは、植栽木が被圧のピークに近くなるとともに、雑草木が前年の生産の蓄積を使い果たす等の生態的な特徴を踏まえ、6月～8月を最適期として実行してきました。

当局においては、令和2年度から労務負担の軽減（熱中症予防）、労働安全の確保（蜂・マムシ対策）、誤伐率の低減、労務の平準化等を踏まえ、下刈りを秋・冬に実施するなど、時期の弾力化に取り組んでいます。

令和7年度には、これまでの実行箇所の追跡調査を行い、下刈り時期の弾力化に取り組むことが可能な条件の整理を行いました。

(2) 取組の成果・効果

調査の結果、現時点で、下刈り時期を弾力化して実行した箇所において、植栽木の生育に支障が生じた箇所は確認されておらず、適さない条件は特定されませんでした。

このため、競合する雑草木の種類等（タケニグサ等が優先的に生息する箇所は除く。）を問わず、可能なところは、下刈り時期の弾力化に取り組みます。

また、近年の気候変動の影響や労務負担等を考慮して、確実に事業を実行していくためには、夏期に下刈りを実行する場合は、理由を精査し、箇所を限定していく必要があると考えています。



下刈りの秋季実施の事例
(山口森林管理事務所)

3 防護柵資材のコスト削減

(1) 取組の概要

主伐・再造林を進めていくなかで、シカの増加による新植苗木への被害が深刻になっており、再造林のコスト削減を進めるうえで、より安価な防護柵の設置が必要です。

当局においては、これまで防護柵の設置に当たっては、FRP*支柱やステンレス入ネット等を活用してきましたが、防護柵資材のコスト削減に向け、可能なところから、支柱には立木を、ネットにはホームセンターでも購入可能な安価な資材（アニマルネット）の活用等に取り組んでいます。

※ FRP：繊維強化プラスチック



立木支柱及びアニマルネットの活用
(島根森林管理署)

(2) 取組の成果・効果

支柱に立木を活用することで、支柱経費を削減することが可能となりました。また、アニマルネットを活用することで、通常のネットの半分程度の価格で資材を購入することが可能となるとともに、重量も軽いため持ち運びが容易となる等の効果がでています。

以上、これらの実証成果については、民有林関係者を含めた森林施業に関する現地検討会の開催等を通じて、実践事例の紹介や実施方法の普及等に取り組んでいきます。

また、これらの取組については、実践事例紹介として多数の写真を掲載したパンフレットを作成し、当局ホームページに掲載していますので、興味のある方はご覧ください。

ホーム > 事業概要 > 民有林との連携 > 3. 低コスト造林等の推進 > 造林作業のコスト削減に向けた取組～実践事例紹介～ <https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/attach/pdf/poapf-3.pdf>



「奥能登地区山地災害復旧対策室移転のおしらせ」

【治山課】

●対策室の移転について

令和6年能登半島地震による山地災害の復旧対策のため、令和6年4月1日、石川県農林総合センター（金沢市）に開設した奥能登地区山地災害復旧対策室は、令和8年4月23日（木）、石川県七尾市内の七尾西湊合同庁舎4階に移転しました。これまで、金沢市から珠洲市の現場まで車で3時間ほどかけて移動していましたが、新事務所からは、1時間半ほどとアクセスしやすい環境となりました。令和8年度は、本格復旧工事として輪島市で6件、珠洲市で4件の民有林直轄治山事業を実施します。



新しい対策室で執務する職員の方々

●対策室の職員紹介

対策室で復旧対策を担当する治山技術職員は、北海道森林管理局、関東森林管理局、中部森林管理局から派遣された応援職員と本庁及び当局職員で構成されています。

この対策室職員のうち、令和6年4月に本庁から室長として赴任された尾木室長、北海道森林管理局から派遣された四宮治山技術官が令和8年4月に異動されました。

この異動に先立ち、令和8年3月26日（木）、上口局長が対策室を訪れ、これまで2年間に渡り、災害復旧に尽力された尾木室長、四宮治山技術官に対し謝意を述べました。



令和8年3月26日、上口局長が対策室を訪問
（左から四宮治山技術官、尾木室長、上口局長）

これに対し尾木室長からは、「能登半島地震発生後に1週間リエゾンとして石川県庁に派遣されたが、このリエゾン活動で赴任するまでにイメージができました。着任早々、対策室の開所式があり、副室長に作成してもらった資料を読み込んで、半ば徹夜状態で開所式を迎えて、あれから2年も経ったのかという気がしています。直轄事業の責務は重いけれども、地元からの要請を受けているということが重要であり、国としての務めとして責任をもってスタートラインが切れたのかなと思っています。4月からは四国森林管理局管内へ異動になりますが、せっかく頂いた縁を切らずに、また皆さんとお付き合いしたいと思います。2年間お世話になりました」と答えました。

四宮治山技術官からは、「局、署、対策室の皆さんや様々な方々の支えがあって、これまで経験したことのないスピード感で、事業を完成させることが出来たと思っています。4月からは北海道局へ異動になりますが、今後もまた皆さんとお付き合いしたいと思います。」と答えました。

尾木室長、四宮治山技術官におかれましては、対策室でのご活躍ありがとうございました。また、派遣元である北海道森林管理局にも感謝いたします。

近畿中国森林管理局では、令和6年能登半島地震・奥能登豪雨による被災地の早期復旧・復興に向けて、引き続き取り組んでまいります。

大山（元谷）資材運搬路の清掃を行いました。

【鳥取森林管理署】

令和8年5月19日（火）、当署職員8名で大山元谷資材運搬路の側溝清掃を行いました。

この資材運搬路は、大山の治山事業を実施する際、資機材等の運搬を行うために設置されたものです。

そのため、定期的な清掃で常に良好な状態を維持するように管理しています。



落ち葉や土の除去作業

今回は、資材運搬路をきれいな状態に保ち雨水の排水が適切にされるように、主に側溝に溜まっていた落ち葉や土の除去を行いました。

当日は、日差しが強く初夏の訪れを感じるような天気の中、全員で力を合わせて清掃を行い予定していた作業を完了しました。

資材運搬路の清掃は春と秋で年2回実施しており、今回は秋に行う予定です。

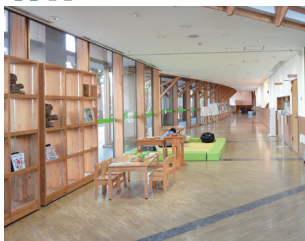


作業終了後

鳥取森林管理署では、今後も治山事業の適切な実施を行い、県のシンボルである大山の環境保全に取り組んでまいります。

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

ホーム > 報道・広報 > イベント情報 > 森林（もり）のギャラリー

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【箕面森林ふれあい推進センター】

○箕面ふれあい推進センターのホームページの写真「今週の一枚」を更新しました。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム > 近畿中国森林管理局へようこそ > 森林管理局の概要 > 箕面森林ふれあい推進センター

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/index.html



【森林技術・支援センター】

○森林技術・支援センターでは、森林・林業関係者の皆様を対象に、当センターの技術開発課題の取組と成果を実際にご覧いただくため、「森林・林業技術視察プログラム」を作成し実施しています。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム > 近畿中国森林管理局へようこそ > 森林管理局の概要 > 森林技術・支援センター > 森林・林業技術視察プログラム

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/shisatsu_program.html



花草木

【シモツケ】

シモツケ（学名：Spiraea japonica、和名：シモツケ（下野）は、バラ科シモツケ属に分類される落葉低木の一種です。山地に生え、庭や庭園にも植えられます。

シモツケ属は約70種が北半球の温帯に分布し、シジミバナ（Spiraea prunifolia）、ユキヤナギ（S. thunbergii）、コデマリ（S. cantoniensis）など、多くの種が栽培されています。

また、シモツケは日本、朝鮮半島、中国に分布する落葉低木です。

育てやすく大きくならず、観賞期間もとても長く特に初心者におすすめの花木です。

花の色は、赤、白、ピンクで初夏に、小さな花が枝先に集まり、ふんわりと咲きます。葉は長めの楕円形でやや尖り、ギザギザしています。

シモツケの花言葉には「はかなさ」「無駄」「無益」「整然とした愛」「優雅な美しさ」「調和」「自由」など、多様な意味があります。



市内の公園で咲いていたシモツケの花です。

我が署のスタッフ 広島北部森林管理署 下野 蓮太 (しもの れんた) (令和7年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループで主に土木担当として、林業専用道新設の監督業務や来年度の事業に向け事務作業等を行っています。規定や規則の中で柔軟な対応等が行えるよう、知識や経験を積み上げられるよう日々を充実したものにしていきたいです。

【職場の雰囲気は？】

優しく知識・経験が豊富な上司が多く、相談しやすい環境が整っていると思います。また、各担当で協力し合いながら進めていく業務もあるため、署全体で仲が良くとても明るい職場です。

【林野庁の魅力は？】

森林の中で作業する時間が多く、木を間近で見ることができ、巨木やきれいに育っている立木を見ると、高揚感に包まれる瞬間を感じることができるのが林野庁の魅力の一つだと思います。また、転勤が広範囲なため、いろいろな都道府県で仕事ができることも魅力だと思います。



林業専用道新設工事の監督業務を実施しています。

森林事務所等紹介

金沢森林事務所 (石川森林管理署)

行政専門員 山田 浩之 (やまだ ひろゆき)

金沢森林事務所は、石川県の県都である金沢市に所在する石川森林管理署の庁舎内にあります。

国有林は、金沢市 (6,367ha)、白山市 (7,553ha)13,920ha を管理しており、官行造林地は、令和6年度をもって全て契約解除となりました。

国有林は、ほぼ全域で保安林 (主に水源かん養及び土砂流出防備) に指定されており、白山市の国有林は大部分が「白山国立公園」に指定されています。

また、保護林等についても「白山森林生態系保護地域」に蛇谷^{じやたに}国有林の一部、「犀川^{さいかわ}源流生物群集保護林」に犀川国有林、「千丈^{せんじょうだい}平生物群集保護林」に千丈ヶ峰^{せんじょうがみね}並びに蛇谷国有林が指定され、加えて「白山山系緑の回廊」を構成する国有林として、犀川^{さいかわ}、三方山^{さんぼうやま}、千丈ヶ峰及び蛇谷の各国有林が指定され、山岳における豊かな自然美を彩っています。

その中で代表的な国有林である蛇谷国有林は、自然に親しんでいただけるようレクリエーションの森の「蛇谷風景林」として整備しています。(日本美しい森 お薦め国有林)

蛇谷風景林内は、「白山白川郷ホワイトロード」(旧名：白山スーパー林道)が貫いており、急峻なV字谷を形成するとともにロード内には「ふくべの大滝」をはじめとした蛇谷八景と評される8つの滝があり、各展望台から様々な滝の姿を見ることができます。

また、ホワイトロードを抜けると「世界遺産五箇山白川郷」があり、魅力満点の観光ルートとなっております。ぜひ一度、訪れてみてはいかがでしょうか。



ホワイトロードから白山を望む



ふくべの大滝

シリーズ『国有林 最前線！』

造林の低コスト化に向けた取組み

～1年生コンテナ苗の活用に向けた検証～

奈良森林管理事務所

我が国の森林は、戦後造成した人工林が主伐期を迎えているものの、木材価格の低迷や造林費用の負担増などにより、主伐及び再造林が進まない状況にあります。

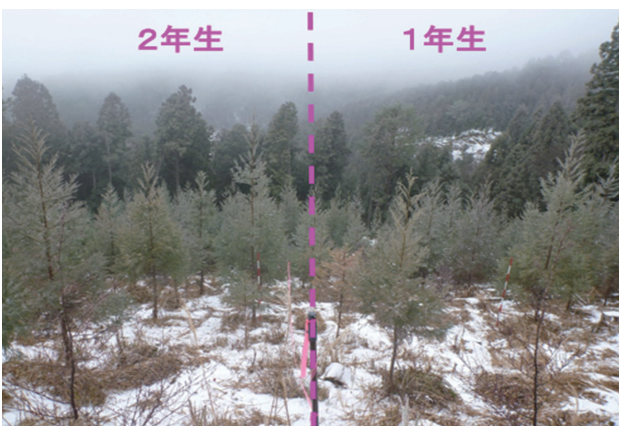
奈良森林管理事務所においても、造林コストの低減へ向けた取組を進めていますが、更なるコスト低減を模索するため、1年生苗に着目し、ひのきまた 桧股国有林に植栽試験地を令和元年6月に設定しました。

活着状況と成長量等を比較するため、1年生と2年生のスギ、ヒノキ苗木をそれぞれ50本ずつ植栽し、経過観察を令和6年11月まで行ったところ、以下のような結果となりました。

・苗木の活着については、第1成長期（植栽7カ月後）の状況では、両苗共に遜色ない（活着率96%）。



植栽試験地設定時の様子（桧股国有林）



1年生苗と2年生苗の成長状況（桧股国有林）

- ・成長量については、根元径、樹高ともにスギは1年生苗の方がやや上回った。
- ・形状比については、最終的には折れやすいとされる100以下に推移した。

以上により、1年生苗の山行苗として活用は可能と考えました。また、植付時（令和元年度）の生産者への聞き取り調査では、育苗コストも約3割低減できるとのことから、価格も同程度に抑えられる可能性があるうえ、2年で2回販売することで収益も向上し、生産者側にもメリットがあることが分かりました。



現地検討会の様子

今回の桧股試験地での検証結果は、令和7年度の現地検討会や局の研究発表会で結果を発表し、民国連携の一助となるべく取組を進めました。

今後も異なる試験地（令和3年度に設定した高取山試験地）のデータ収集と分析、造林費トータルでのコスト比較などを行い、1年生コンテナ苗の普及に向けてさらに取り組んでいきたいと考えています。

※本研究の詳細については、局ホームページの森林・林業交流研究発表会「発表集録」に掲載しています。

ホーム> 報道・広報> イベント情報> 森林・林業交流研究発表会

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



令和7年度 森林・林業交流研究発表会